

エビフリモちゃんの「医療現場へ突撃インタビュー」

みどり市民病院 内分泌・糖尿病内科医の
伊藤先生に聞きました!!

小さな臓器が支える大きな役割

「甲状腺」のはなし



Instagram

名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院
内分泌・糖尿病内科 部長代理**伊藤 峻介**

[いとう・しゅんすけ]

名古屋市立大学医学部卒/刈谷豊田
総合病院、いなべ総合病院、名古屋
市立大学病院、名古屋市立大学医
学部附属西部医療センターに勤務
/2023年～みどり市民病院/日本内
分泌学会内分泌代謝科専門医

はじめに

「最近なんとなく疲れやすい」「体重が急に増えたり減ったりする」「首のあたりに違和感がある」——そんな症状はありませんか。実は、こうした不調の背景に「甲状腺」という臓器が関わっていることがあります。甲状腺は首の前側にある小さな臓器ですが、ホルモンを分泌して全身の代謝や体調をコントロールする、大切な役割を担っています。健診や外来でも比較的良好異常が見つかる臓器であり、特に女性で悩まれる方が多いのも特徴です。

今回は、甲状腺の基本的な働きと、代表的な病気、そして日常生活との関わりについてご紹介します。

甲状腺とは

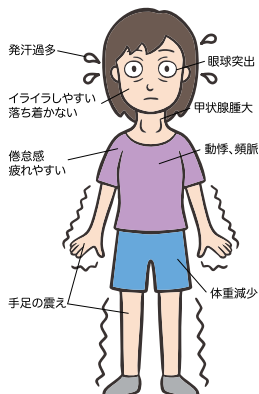
甲状腺は喉仏（のどぼとけ）のすぐ下にあり、前から見ると蝶のような形をした臓器です。大きさは縦4～4.5cm、幅は左右それぞれ1.5cm程度です。甲状腺はホルモンを分泌する臓器で、甲状腺ホルモンは身体の発育、代謝、恒常性の維持などに働いています。健診では40歳以上の成人の5人に1人に甲状腺の異常が見つかるというデータがあり、また病院の一般外来を受診する患者さんでは13%に甲状腺の病気が見つかるという報告もあります。甲状腺の病気は大きく分けて、甲状腺機能（ホルモンの量）に問題がある場合と、「しこり」が問題になる場合があります。



甲状腺ホルモンの病気

ホルモンの量が過剰（甲状腺機能亢進症、甲状腺中毒症）な場合、最も多いのは自己免疫により起こるバセドウ病です。バセドウ病の有病率は人口200人当たり1人とされ、比較的若い女性に多い病気です。交感神経が活発になり過ぎ、代謝も過剰に亢進して、動悸、息切れ、体重減少、振戦（手などの振るえ）、疲れやすいなどの症状が起こります。バセドウ病には飲み薬や放射性ヨード内服療法、手術など治療法が確立していますので、医師と相談してみてください。

逆に甲状腺ホルモンが不足（甲状腺機能低下症）する病気として、橋本病があります。橋本病の患者さんが皆ホルモンが低下する訳ではありませんが、女性の5人に1人から10人に1人が橋本病に罹患すると言われています。バセドウ病とは逆に代謝が低下して、寒がり、体重増加、声の嘎れ、無気力、便秘などの症状が現れることがあります。橋本病も、甲状腺ホルモンの薬を内服して補充するという治療法があります。



甲状腺のしこり

先述のバセドウ病や橋本病でも甲状腺が腫れることがあります。甲状腺の腫れは「しこり」である場合もあります。しこりの多くは、腫瘍などではない過形成ですが、一部に悪性腫瘍（がんなど）が見られることがあります。「甲状腺が腫れているのでは」とか「首の前側にしこりを触れる」というときには、受診をおすすめします。



© ITOHOSPITAL

甲状腺ホルモンと妊娠・出産

甲状腺の病気は女性に多く、妊娠・出産に影響する場合があります。中でも、橋本病などによる甲状腺機能の低下は不妊症や胎児の発育異常の原因となるので、甲状腺の異常を指摘されたことがある場合は、妊娠前に検査をお勧めします。



おわりに

甲状腺の病気はそれほど特別なものではなく、誰にでも起こり得る比較的身近な病気です。ホルモンの過不足による体調不良や首のしこりなど、気になる症状があっても「年齢のせいかも」と見過ごしてしまう方も少なくありません。けれど、きちんと検査・治療を受けることで、普段通りの生活を取り戻せることが多いのも特徴です。特に女性では妊娠や出産に影響する場合もあるため、早めの受診や定期的なチェックが安心につながります。「もしかし」と思うことがあれば、一人で抱え込まずまずは医療機関に相談してみてください。小さな臓器ですが、健康を守るうえで大きな役割を果たしている甲状腺について、この機会に少し意識していたいただければ幸いです。



Information

予防医学が紡ぐ 幸せな健康未来 ～みどり市民病院の挑戦～

人生100年時代、自分自身はもちろん、大切な家族の健康を守る予防医療。大切な人の【小さな異常に気付く】【ちょっと生活習慣を見直す】きっかけを見つけてみませんか。

